

小麦の栽培に就て

小むぎの増殖を圖ることは食糧政策上將亦作業經營の改善、農家經濟更生上、極めて重大なる意義を有するのである。

本村にしても今秋水田裏作並に桑園整理跡地に小麦を栽培せらるゝ、向きも相當の多きに達せらるゝ、事と思ふから、本會の前二ヶ年行ひたる小麦栽培實地指導地並に本村より各小麦多收獲競争會出品者各位の成績に鑑み、此處に本村としての水田裏作小むぎ栽培の標準となるべき方法に就て記述し栽培者各位の参考に供する次第である。

龍 村 農 會

一、品種

伊賀筑後メオレゴン
本種は早熟且つ品質優良で多收であるから水田裏作小むぎとしては最も優良なるものである。

二、種子

伊賀筑後メオレゴン種は交雑個定種なる爲め栽培を重ねると變種を生じ易いから年々採種圃産の種子を用ひる事が肝要である。

三、鹽水選

比重一、二二液の鹽水選並に篩選に依り良く嚴選すること

四、麥奴豫防

黒穂病としては裸黒穂ミセイ黒穂の被害が多い、特にセイが子實の内部は黒カツ色の粉末化して生臭き悪臭を放つを特徴とする、兩者共極めて少量と雖も之を混在すれば製粉は着色し品質劣悪となり殆ど

小麥としての價值が無いから

小麥栽培に當りて麥奴豫防は必行事項である、故に今秋播種せらるゝものに就ては絶対に麥奴豫防を施行せられ度い其方法は次の通りである。

(1)、冷水温湯浸漬法

種子を清水中に約七時間浸漬して後華氏百二十度の湯に暫時浸し種子を攪伴しつゝ、種子の温りたるを待ち次に百三十度の温湯中に入れよく攪伴しつゝ、五分間浸漬して取出直ちに多量の冷水を灌ぎて冷却す

(2)、風呂浸漬法

這入加減の風呂湯(華氏百十五度内外)に浸漬して蓋をなし六乃至十時間後に取出し直ちに冷水で冷却して播種す、

入浴には石鹼を使用しない事浸漬後釜の火氣は嚴重に取除くこと等の注意が必要であるが、入浴後の風呂を利用し得らるゝ、最も簡便な方法である

(3)、硫酸銅液浸漬法

臭黒穂に適應する方法で硫酸銅液(水一斗硫酸銅十五匁)中に三時間浸し後良く清水で洗つて播種す。

三、整地

(1)、普通整地法

排水不良の地及重ねんの地に行ふ方法で従来一般に行はれた方法である、播種後の管理には便利なるも勞力を多く要する事、踏みを充分行はなければ凍抜けを多く生ずる缺點がある。

(2)、不整地播(一名在來株播)

排水良好なる土地又は輕乾土砂質地に行ふ方法で全然耕起せず周圍及三間隔位に排水溝を作り之の土を破碎全面に良く均して作條を作り播種す。注意全面に缺の入らない所のない様にすることが雑草を少くする上に最も必要である。

四、アゼ巾及播巾

アゼ巾及播巾は排水の良否土壤の肥瘦施肥量等に依り加減すべきであるが本村水田裏作としては左の標準が良い。

(1) 整地播	アゼ巾	二尺五寸
	播巾	一尺七寸
方法	二尺五寸隔に繩を張り此の兩側を中八寸位の鋤鉤にて平に作條を作り基肥を施し薄く覆土して下種更に覆土すれば中に一寸の間隙を生じ所定のアゼ巾及播巾を得	

(2)、不整地播

稲アゼ巾三アゼ巾中二アゼ巾或は四アゼ巾中三アゼ巾を播巾とし一アゼ巾をアゼ巾とする。

方法 稲刈の際成る可く地際より刈取り、除草器等にて播巾中の土を細かに二、三寸の深さに削取り其の溝中に基肥を施し薄く覆土して後下種しアゼ巾間に盛上げた土を以て覆土す。

五、播種期

水田裏作小麦栽培に當つて最も懸念するは熟期の遅延である、熟期は播種期を早むる事に依つて急がす事が可能であるから蒔付は出来る限り早くする事が肝要である。

從來本村の慣行播種期は遅れ勝であるから成る可く十月中旬には下種を終る様にしたい今參考の爲め農事試驗場下伊那分場に於ける下種期と收量並に熟期の試験成績を示せば次如くである。

播種期	出ホ	刈取	反當收量
月	日	月	日
一〇	一五	一〇	一五
一〇	二五	一〇	二五
一〇	三五	一〇	三五
一〇	四五	一〇	四五
一〇	五五	一〇	五五
一〇	六五	一〇	六五
一〇	七五	一〇	七五
一〇	八五	一〇	八五
一〇	九五	一〇	九五
一〇	一〇五	一〇	一〇五
一〇	一五五	一〇	一五五
一〇	二〇五	一〇	二〇五
一〇	二五五	一〇	二五五
一〇	三〇五	一〇	三〇五
一〇	三五五	一〇	三五五
一〇	四〇五	一〇	四〇五
一〇	四五五	一〇	四五五
一〇	五〇五	一〇	五〇五
一〇	五五五	一〇	五五五
一〇	六〇五	一〇	六〇五
一〇	六五五	一〇	六五五
一〇	七〇五	一〇	七〇五
一〇	七五五	一〇	七五五
一〇	八〇五	一〇	八〇五
一〇	八五五	一〇	八五五
一〇	九〇五	一〇	九〇五
一〇	九五五	一〇	九五五
一〇	一〇〇五	一〇	一〇〇五
一〇	一〇五五	一〇	一〇五五
一〇	一一〇五	一〇	一一〇五
一〇	一一五五	一〇	一一五五
一〇	一二〇五	一〇	一二〇五
一〇	一二五五	一〇	一二五五
一〇	一三〇五	一〇	一三〇五
一〇	一三五五	一〇	一三五五
一〇	一四〇五	一〇	一四〇五
一〇	一四五五	一〇	一四五五
一〇	一五〇五	一〇	一五〇五
一〇	一五五五	一〇	一五五五
一〇	一六〇五	一〇	一六〇五
一〇	一六五五	一〇	一六五五
一〇	一七〇五	一〇	一七〇五
一〇	一七五五	一〇	一七五五
一〇	一八〇五	一〇	一八〇五
一〇	一八五五	一〇	一八五五
一〇	一九〇五	一〇	一九〇五
一〇	一九五五	一〇	一九五五
一〇	二〇〇五	一〇	二〇〇五
一〇	二〇五五	一〇	二〇五五
一〇	二一〇五	一〇	二一〇五
一〇	二一五五	一〇	二一五五
一〇	二二〇五	一〇	二二〇五
一〇	二二五五	一〇	二二五五
一〇	二三〇五	一〇	二三〇五
一〇	二三五五	一〇	二三五五
一〇	二四〇五	一〇	二四〇五
一〇	二四五五	一〇	二四五五
一〇	二五〇五	一〇	二五〇五
一〇	二五五五	一〇	二五五五
一〇	二六〇五	一〇	二六〇五
一〇	二六五五	一〇	二六五五
一〇	二七〇五	一〇	二七〇五
一〇	二七五五	一〇	二七五五
一〇	二八〇五	一〇	二八〇五
一〇	二八五五	一〇	二八五五
一〇	二九〇五	一〇	二九〇五
一〇	二九五五	一〇	二九五五
一〇	三〇〇五	一〇	三〇〇五
一〇	三〇五五	一〇	三〇五五
一〇	三一〇五	一〇	三一〇五
一〇	三一五五	一〇	三一五五
一〇	三二〇五	一〇	三二〇五
一〇	三二五五	一〇	三二五五
一〇	三三〇五	一〇	三三〇五
一〇	三三五五	一〇	三三五五
一〇	三四〇五	一〇	三四〇五
一〇	三四五五	一〇	三四五五
一〇	三五〇五	一〇	三五〇五
一〇	三五五五	一〇	三五五五
一〇	三六〇五	一〇	三六〇五
一〇	三六五五	一〇	三六五五
一〇	三七〇五	一〇	三七〇五
一〇	三七五五	一〇	三七五五
一〇	三八〇五	一〇	三八〇五
一〇	三八五五	一〇	三八五五
一〇	三九〇五	一〇	三九〇五
一〇	三九五五	一〇	三九五五
一〇	四〇〇五	一〇	四〇〇五
一〇	四〇五五	一〇	四〇五五
一〇	四一〇五	一〇	四一〇五
一〇	四一五五	一〇	四一五五
一〇	四二〇五	一〇	四二〇五
一〇	四二五五	一〇	四二五五
一〇	四三〇五	一〇	四三〇五
一〇	四三五五	一〇	四三五五
一〇	四四〇五	一〇	四四〇五
一〇	四四五五	一〇	四四五五
一〇	四五〇五	一〇	四五〇五
一〇	四五五五	一〇	四五五五
一〇	四六〇五	一〇	四六〇五
一〇	四六五五	一〇	四六五五
一〇	四七〇五	一〇	四七〇五
一〇	四七五五	一〇	四七五五
一〇	四八〇五	一〇	四八〇五
一〇	四八五五	一〇	四八五五
一〇	四九〇五	一〇	四九〇五
一〇	四九五五	一〇	四九五五
一〇	五〇〇五	一〇	五〇〇五
一〇	五〇五五	一〇	五〇五五
一〇	五一〇五	一〇	五一〇五
一〇	五一五五	一〇	五一五五
一〇	五二〇五	一〇	五二〇五
一〇	五二五五	一〇	五二五五
一〇	五三〇五	一〇	五三〇五
一〇	五三五五	一〇	五三五五
一〇	五四〇五	一〇	五四〇五
一〇	五四五五	一〇	五四五五
一〇	五五〇五	一〇	五五〇五
一〇	五五五五	一〇	五五五五
一〇	五六〇五	一〇	五六〇五
一〇	五六五五	一〇	五六五五
一〇	五七〇五	一〇	五七〇五
一〇	五七五五	一〇	五七五五
一〇	五八〇五	一〇	五八〇五
一〇	五八五五	一〇	五八五五
一〇	五九〇五	一〇	五九〇五
一〇	五九五五	一〇	五九五五
一〇	六〇〇五	一〇	六〇〇五
一〇	六〇五五	一〇	六〇五五
一〇	六一〇五	一〇	六一〇五
一〇	六一五五	一〇	六一五五
一〇	六二〇五	一〇	六二〇五
一〇	六二五五	一〇	六二五五
一〇	六三〇五	一〇	六三〇五
一〇	六三五五	一〇	六三五五
一〇	六四〇五	一〇	六四〇五
一〇	六四五五	一〇	六四五五
一〇	六五〇五	一〇	六五〇五
一〇	六五五五	一〇	六五五五
一〇	六六〇五	一〇	六六〇五
一〇	六六五五	一〇	六六五五
一〇	六七〇五	一〇	六七〇五
一〇	六七五五	一〇	六七五五
一〇	六八〇五	一〇	六八〇五
一〇	六八五五	一〇	六八五五
一〇	六九〇五	一〇	六九〇五
一〇	六九五五	一〇	六九五五
一〇	七〇〇五	一〇	七〇〇五
一〇	七〇五五	一〇	七〇五五
一〇	七一〇五	一〇	七一〇五
一〇	七一五五	一〇	七一五五
一〇	七二〇五	一〇	七二〇五
一〇	七二五五	一〇	七二五五
一〇	七三〇五	一〇	七三〇五
一〇	七三五五	一〇	七三五五
一〇	七四〇五	一〇	七四〇五
一〇	七四五五	一〇	七四五五
一〇	七五〇五	一〇	七五〇五
一〇	七五五五	一〇	七五五五
一〇	七六〇五	一〇	七六〇五
一〇	七六五五	一〇	七六五五
一〇	七七〇五	一〇	七七〇五
一〇	七七五五	一〇	七七五五
一〇	七八〇五	一〇	七八〇五
一〇	七八五五	一〇	七八五五
一〇	七九〇五	一〇	七九〇五
一〇	七九五五	一〇	七九五五
一〇	八〇〇五	一〇	八〇〇五
一〇	八〇五五	一〇	八〇五五
一〇	八一〇五	一〇	八一〇五
一〇	八一五五	一〇	八一五五
一〇	八二〇五	一〇	八二〇五
一〇	八二五五	一〇	八二五五
一〇	八三〇五	一〇	八三〇五
一〇	八三五五	一〇	八三五五
一〇	八四〇五	一〇	八四〇五
一〇	八四五五	一〇	八四五五
一〇	八五〇五	一〇	八五〇五
一〇	八五五五	一〇	八五五五
一〇	八六〇五	一〇	八六〇五
一〇	八六五五	一〇	八六五五
一〇	八七〇五	一〇	八七〇五
一〇	八七五五	一〇	八七五五
一〇	八八〇五	一〇	八八〇五
一〇	八八五五	一〇	八八五五
一〇	八九〇五	一〇	八九〇五
一〇	八九五五	一〇	八九五五
一〇	九〇〇五	一〇	九〇〇五
一〇	九〇五五	一〇	九〇五五
一〇	九一〇五	一〇	九一〇五
一〇	九一五五	一〇	九一五五
一〇	九二〇五	一〇	九二〇五
一〇	九二五五	一〇	九二五五
一〇	九三〇五	一〇	九三〇五
一〇	九三五五	一〇	九三五五
一〇	九四〇五	一〇	九四〇五
一〇	九四五五	一〇	九四五五
一〇	九五〇五	一〇	九五〇五
一〇	九五五五	一〇	九五五五
一〇	九六〇五	一〇	九六〇五
一〇	九六五五	一〇	九六五五
一〇	九七〇五	一〇	九七〇五
一〇	九七五五	一〇	九七五五
一〇	九八〇五	一〇	九八〇五
一〇	九八五五	一〇	九八五五
一〇	九九〇五	一〇	九九〇五
一〇	九九五五	一〇	九九五五
一〇	一〇〇〇五	一〇	一〇〇〇五

種の最適期は十月二十一日頃である。

六、播種量
播種量は粒の大小氣候土性播種期施肥量土地利用の大小に依つて異なるべきものであるが、選種が完全で右記の位の利用率で然かも本村の氣候土壤等から見て伊賀筑後メオレゴン種の如き大粒のもので反當四升で充分である。

但し十一月中旬頃まで播種期の延びた場合は四升五合位にすべきである。

又蒔時にしない場合には之より三、四割を減するが適當である。

七、播種法
廣播の場合には中心に一、二寸間隔を

肥料の種類を選ぶこと

麦は各期間気温の低き時期に栽培するものであるから肥料としては成る可く分解の早く肥効の速かなるものを選ぶ事

ヒコしては速効性のものを選び特に追肥は解雪後三月中旬下旬に施し遅き追肥は戒むべき

である。今本村水田裏作小麦の施と標準を示せば

第一例 (昭和八年度桐林指導地)

肥料名 反當施肥量 元肥 追肥 施肥期及方法

堆肥 二〇〇貫 二〇〇貫 一貫 蒔種前播種溝の中に堆肥に同じ

蠶糞堆肥 一〇〇貫 一〇〇貫 一貫 蒔種前蒔種溝の中に堆肥に同じ

蛹糞堆肥 一〇〇貫 一〇〇貫 一貫 蒔種前蒔種溝の中に堆肥に同じ

硫安 一〇貫 五貫 五貫 蒔種前蒔種溝の中に堆肥に同じ

過石 七貫 五貫 二貫 蒔種前蒔種溝の中に堆肥に同じ

木灰 三〇貫 一〇貫 三〇貫 蒔種前蒔種溝の中に堆肥に同じ

右の所含三要素量 窒素四貫六六〇匁 磷酸四貫一六〇匁 加里三貫七八二匁

第二例 (昭和七年度上川路指導地)

肥料名 反當施肥量 基肥 追肥 施肥期及方法

蠶糞堆肥 二〇〇貫 二〇〇貫 一貫 蒔種前蒔種溝の中に堆肥に同じ

大豆粕 一〇貫 一〇貫 一貫 蒔種前蒔種溝の中に堆肥に同じ

木灰 三〇貫 一〇貫 三〇貫 蒔種前蒔種溝の中に堆肥に同じ

硫安 七貫 三貫 四貫 蒔種前蒔種溝の中に堆肥に同じ

右檢定三要素量 窒素三貫六七〇匁 磷酸三貫五二〇匁 加里三貫三六〇匁

加三三貫三六〇匁

備考 右標準に過磷酸石灰無きは蠶糞堆と製造に際し過磷酸石灰を多く使用したる爲なり。

備考 人糞尿を有するものは硫安一貫に對し濃きもの四〇貫位に代へること。

二、木灰の無い場合には木灰一〇貫に對し硫酸加里一貫五百匁に代へること。

三、有機質多き土壤にては大豆粕一〇貫を硫安三貫に代ふるも可なり。

九、麥踏 寒害の防止に徒長抑制を爲る爲行ふ作業之亦重要な事である。

方法 表土の乾燥した際草鞋

等にて踏付ける。

時期及回数 十二月中旬、二月下旬、三月中旬の三回は是非必要である。

一〇、中耕土入 不整地時は秋未アゼ間耕部を成る可く深く起して排水

一般の中耕は土入に先立ち成る可く細かに打起す。

土入は麥作上絶対必要作業である、土入の回数及時期等は土地状況及麥の生育等に依りて定むべきで、厚きに過ぎれば生育を遅延し薄きに過ぎれば効果が少い、今農試下伊那分場に於ける成績を示せば

土入土ノ出穂 穂長 反當收

一回 寸分 五、九 四、四 二、八六〇

二回 寸分 五、〇 三、五 三、八六〇

三回 寸分 五、〇 三、七 三、〇三三

四回 寸分 五、〇 三、三 二、八六〇

五回 寸分 五、三 三、四 二、八九一

右の成績を參考し時期及回数を示せば次の如し

白くて滋養豊富安價な小麦飯を奨む

木下三郎 由

近來小麦の栽培が盛んになるに共一方小麦利用の問題も大分研究されて参りました、私共も小麦を何うかして常食にしたいと考へた末小麦を精白にして之を平麥として從來の麥飯の様に炊き食べました所非常に良好でありました、小麦は大麥に比較して反當收量は少ないが、之を精白にする際搗き減りが少ないので結局現在の收獲からすれば反當精白麥の量は小ムギの方が幾分多い位です、又大ムギ飯に比べて腹の減り方が遅い様です、之は消化が悪いのではなく營養價值が高いのだと思ひます、ムギ飯に比して色が白い爲、ムギ飯の割合を多くしても目立たず、其上ねばり氣があり味も芳しくあります。

成分の含有量は 蛋白質 〇、二〇% 脂肪 一、六三% 白米 六、八二% 小ムギ 九、九七% 大ムギ 一、三三% 小ムギ 一、二二%

ムギの入る量は米の半分乃至等量位入れても大ムギ程苦になりません、而し精白にする際は充分に搗く必要があり、搗くには精米機より精ムギ機の方が時間も短縮されよく精白されます、炊き方は米をよくまぜて普通飯の様に炊き方です、小ムギは五ヶ年計劃で國內自給を目標として農林省始各指導機關で奨励した爲二ヶ年間で最初の目的は達せられました、従つて今後小ムギの價格は非常に下落するだらうと思はれますからまづ自給自足を目的として栽培すべきでせう、米價高で飯米不足、然も米價の暴落で深刻な不況、米を買いたくも金が無いが食べづには買はれないこの大恐慌下の農村に小ムギがすべてに適して、早く食糧になるのですから先づ此の御飯を用ひ自給自足で生活する必要があると思ひます、美味で、安く然も滋養價のある小ムギ飯の常用を是非お奨め致します